

編集後記

2023 年度は、来校制限などを設けずに学びの発表会を行うことができました。実に 4 年振りのことです。

この 4 年間は、初等部の子どもたちを中心に置き、教師はどうやってサポートできるか、どうファシリテーションするのか、考え続けてきた 4 年間でもありました。

初等部の 100 周年へ向けて、今後も初等部の教育の在り方について問い直し続けていきたいと考えています。

初等部 田嶋健人

2021 年度、22 年度は学園が創立 100 周年を迎えて新たな教育実践が行われ、同時にコロナウイルス感染予防による行動制限の中でも学習が続けられるよう、オンライン学習による学習形態の大きな変化があった時でした。まとめられた原稿を通じて、改めて教育の本質に向き合った 2 年間であったのだと感じています。ご多忙な中原稿をおまとめいただいた皆様に感謝いたします。男子部 内藤優子

年報が再スタートした。教育実践記録としての年報も重要だが、教育として実践した内容を文字化することで客観化でき、新たな地平が開けることを再認識した。共学化後の新たな学園教育に役立つことを願う。

最高学部 奈良忠寿

『自由学園一〇〇年史』をまとめた際、特に近年の事項についてはこの「年報」が貴重な資料となりました。各年度の教育実践を担った当事者が記録を残すことは、未来の実践の土台となると感じます。お忙しい中で原稿をまとめて下さった先生方に感謝いたします。

資料室 菅原然子